

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月15日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2009～2011

課題番号：21252002

研究課題名（和文） 国家社会システムの転換と政党の変容・再生—ポスト新自由主義期中南米の比較研究—

研究課題名（英文） Changing Dynamics of State-Society Relations and Transformations of Party Systems: A Comparative Analysis of Post-neoliberal Latin America

研究代表者

村上 勇介（MURAKAMI YUSUKE）

京都大学・地域研究統合情報センター・准教授

研究者番号：70290921

研究成果の概要（和文）：新自由主義改革後の中南米では、政党システムが安定化する国と不安定化する国に二分化する現象が生じている。それは、新自由主義改革の開始時期の違いによって引き起こされた。安定化する国では、民政移管前に進められた新自由主義改革を批判する左派が、民政移管推進勢力の一部として地歩を固め、民政移管後に穏健左派として政党システムの一角を占めた。これに対し、不安定化した国では、民政移管後ないし長期にわたる二大政党制の政党政治が新自由主義改革を推進した。同改革が一段落し、それに対する不満や批判が拡大し始めた時、その受け皿となる左派政党は存在しなかった。

研究成果の概要（英文）：In the post-neoliberal Latin America, while in some countries the party system has been more unstable, in others it has become stable. The different timing of starting neoliberal reforms made this difference. In the stabilizing cases, neoliberal reforms were put in practice before the transition to democracy, and the left forces, critical of neoliberal reforms, expanded their presence in political arena as part of the driving forces for the transition to democracy, becoming one of the supports of the party system after the democratization. On the other hand, in destabilizing cases, party politics were the mainstay of neoliberal reforms after transition to democracy or in a traditional bipartisan system. Once these reforms reached certain level of advance and when the criticism against the neoliberalism gained more popular support, in the party system there existed no leftist parties which could have attracted those opposed to neoliberalism.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,180,000	354,000	1,534,000
2011年度	1,030,000	309,000	1,339,000
総計	3,610,000	1,083,000	4,693,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学（3501）

キーワード：政治学、民主主義、政党システム、ポスト新自由主義、ラテンアメリカ

1. 研究開始当初の背景

中南米の先発工業化国（アルゼンチン、ブラジル、チリ、メキシコ、ウルグアイ）と後発国の代表、アンデス諸国（ボリビア、コロ

ンビア、エクアドル、ペルー、ベネズエラ）の下院選挙の選挙変易率（electoral volatility）の平均をみると、後者の場合、民主化開始後の1980年代前半から90年代半

ばまでが 44.5、90 年代半ばから現在までが 40.2 で、大きく変わっていない。これに対し、先発諸国では、近年、先進国並みの水準に低下している (36.0→17.1)。

以上の事実は、先行研究の再検討を迫る。これまで、民主化後、中南米の政党は、様々な困難をまえに、機能低下し脆弱化したと分析されてきた。まず、民主化の引き金となった、それまでの国家主導型発展モデルの破綻による経済の不安定化に直面した。次に、国家社会システムの大転換が起きた。それは、経済安定化のために導入された新自由主義による市場経済化を主因とし、グローバル化や地域統合、国内の分権化が加速的に進行したことも誘因となった。

そうした状況を背景に、1980 年代から 90 年代には、既存の政党や組合などの中間組織が脆弱化し各国の政治が不安定化した (前表の選挙変易率)。とりわけ政党の弱体化は政治的な影響が大きく、民主政治の枠組みが動揺する事例も増加した。90 年代終わりからは、新自由主義に批判的な左派勢力が台頭し、現在、それが主流となるポスト新自由主義期を迎えている。

2. 研究の目的

そうしたなか、近年、先行研究の分析から逸脱する、政党システムの安定化の事例が見られる。その原因は何か。民主化後に政党の再編や刷新が起きたのか。それは、どのような条件や過程で起きたのか。あるいは、工業化の先発性に伴う階層的亀裂構造など、民主化以前の歴史的、構造的要因が関係しているのか。または両者が複合して生じたのか。ないしは、他に根本的な原因があるのか。

以上の疑問に答えるため、本研究は中南米諸国に関し次の 3 点からなる調査研究を実施した。

(1) 歴史的経緯や構造的条件との関連も含め動態分析を行い、90 年代半ば以降の安定化ないし不安定性の継続の要因と背景、今後の展望を各国ごとに明らかにする。

(2) 政党システムの変容と現状の原因や背景、構造的条件などについて、事例間の共通性と相違点を検証する。

(3) 他地域との比較を行い、中南米を事例とする本研究の調査研究結果、ならびにその比較分析枠組みを検証する。

3. 研究の方法

本研究の研究期間は 3 年間で、次の 3 つの段階からなっていた。

(1) 初年度が研究の第一段階で、その柱は、歴史的経緯や構造的条件との関連も含め、1970 年代末からの民主化と市場経済化以降の政党システムの変容と現状を動的に分析することである。90 年代半ば以降の政党シ

ステムの安定化ないし不安定性の継続の要因と背景、今後の展望を各国ごとに明らかにした。

(2) 次年度が研究の第二段階で、共通した枠組みを用い、先発諸国の間、後発諸国の間、また先発諸国と後発国との間の比較研究を実施した。目的は、政党システムの変容と現状の原因や背景、また構造的、歴史的な条件などについて、共通性と相違点を検証することである。特に、安定性の相違の背景や条件、過程を立体的に究明するため、先発諸国と後発諸国の間の比較に重点を置いた。同時に、比較枠組分析の汎用性を高めるよう検証をくわえた。

(3) 最終年度が研究の最終段階で、他地域との予備的な比較による理論化の方向性を考察した。中南米に関する研究成果と分析枠組みの完成を確認した。そして、他地域との比較研究を行い、調査研究の結果と比較分析枠組みの一般化の方向性を探求した。

4. 研究成果

民政移管後の民主政治を担った政党が衰退し政党システムが不安定となった場合でも、新自由主義改革が関わっていない場合がある。具体的には、ペルーとベネズエラがこれに当たる。両国の主要政党が衰退した原因は、程度の違いはあれ、国家中心型マトリクスの限界による経済や社会の不安定化にあった。その後、主要政党とは無関係の「アウトサイダー」が政権に就き、政策を遂行する中で主要政党が力を失い政党システムが崩壊した。ただ、経済路線は正反対であった。ペルーでは新自由主義改革が強力に推進されたのに対し、ベネズエラでは新自由主義改革に対する批判が優越した。

新自由主義改革の帰結として民政移管後の政党システムが動揺したことが明確であるのは、ボリビア、アルゼンチン、エクアドル、コロンビアである。ボリビアは政党間の連合政治によって、アルゼンチンはペロニスタ党政権によって、新自由主義改革が進められ、その成果により多くの国民はこれを当初は支持した。しかし、貧困や格差などのミクロ的、構造的な問題が改めて認識され、1990 年代終わりの国際的な危機もあり、民政移管後の主要政党は国民の支持を失った。エクアドルは、社会の不安定化が深刻でなかったことから新自由主義改革の推進は遅れて始まったが、ボリビアのように連合政治で進められた。その後、新自由主義改革を進めた政党政治に対する批判が起り、それを支えた政党は衰退した。コロンビアでも、伝統的な二大政党制の下で徐々に新自由主義改革が進められ、1990 年代終わりにはその二大政党制が崩れた。

他方、ブラジル、チリ、メキシコ、ウルグ

アイの4ヶ国は、新自由主義改革の進展過程を経ても安定化傾向を示してきた。ウルグアイでは、新自由主義改革推進の中心となったコロラド党の力が衰えたものの、その代わりに、議会で着実に勢力を伸ばし政権に就いた左派の拡大戦線が二大政党制の一翼となって、政党システムの安定化傾向の基調を崩さなかった。ペルーなどとともに制度化していない政党システムであったブラジルでも、新自由主義改革を進める過程で、議会を舞台に、右派から中道左派までの推進派勢力と、徐々に勢力を拡大してきた労働者党を中心とする批判派の、二大勢力化が起こり、安定化してきた。また、チリとメキシコでは、新自由主義改革を実施した非民主的な政治支配（前者は軍事政権、後者は権威主義体制）の下で勢力を伸ばした連合組織や政党が定着した。

ブラジルとウルグアイの展開に関しては、民政移管後、低所得者層を代表する政党が現れ、左右の軸で政党間関係が単純化し、両勢力の間で新自由主義改革が徐々に進められ、その不満を梃子に現れた左派も穏健となった、と整理することができる。別の言い方をすれば、新自由主義という争点を軸として、政党システムの制度化が進んだのである。

この制度化で重要なのは、新自由主義改革が進められる過程において、それに批判的な人々の受け皿となり、かつ議会で徐々に勢力を伸ばすか継続的に一定の勢力を保持できる能力を持つ左派政党の存在である。チリとメキシコでも、受け皿となる連合や政党の継続的な存在が観察された。

これは、不安定化した諸国の例と比較すると明らかとなる。ブラジルと同じように連合政治の下で新自由主義改革が進んだボリビアとエクアドルの例では、先住民運動など社会運動としては批判が表出されたが、議会で一定の勢力を誇示できる存在となるには時差が伴った。「アウトサイダー」の下で新自由主義改革が行われたペルーや、二大政党や二大政党と関係した人物の下で同改革が進められたコロンビア、ベネズエラでも、そうした左派政党の存在はなかった。ペロニスタ党が主な推進主体だったアルゼンチンでも、継続的なプレゼンスを有する、不満や批判の受け皿となる政党勢力は誕生しなかった。

これは、新自由主義改革を推進した政党や勢力、人物の政治的力がそれだけ大きかったことを意味する。他方、それは、新自由主義への強い反発を生む土壌ともなった。安定化傾向の4ヶ国と比べて、不安定化した国では、より短期間で新自由主義批判勢力が伸張し、急進化の例も見られた。

別の観点からすれば、次のように言える。超高率インフレ対策など経済安定化のために新自由主義改革が必要だった時期には、それを推進する勢力の存在で十分であった。そ

の目的が達成され、新自由主義改革の負の面が強く認識されるようになる次の段階で、同改革への不満や批判を吸収し表出できる政党が存在する、ないしは次第に勢力を拡大する、という条件が満たされるか否かが、政党システムの安定化と不安定性の分かれ目となった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計58件)

①Murakami, Yusuke, “Introducción: inernarse en el laberinto político y económico de la región andina contemporánea”. En Yusuke Murakami ed., *Dinámica político-económica de los países andinos*. Lima: Instituto de Estudios Peruanos (IEP), 2012, 9-36, 査読有.

②Murakami, Yusuke, “Partidos políticos en los países andinos: una comparación desde una perspectiva institucional”. En Yusuke Murakami ed., *Dinámica político-económica de los países andinos*. Lima: IEP, 2012, 81-134, 査読有.

③Murakami, Yusuke, “La política de colapso de los partidos políticos (o *outsiders*): una comparación entre Fujimori, del Perú, y Chávez, de Venezuela”. En Yusuke Murakami ed., *Dinámica político-económica de los países andinos*, Lima: IEP, 2012, 135-172, 査読有.

④Murakami, Yusuke, “Política peruana después de Fujimori: fragmentación política y poca institucionalización”. En Yusuke Murakami ed., *Dinámica político-económica de los países andinos*. Lima: IEP, 2012, 251-292, 査読有.

⑤Araki, Hidekazu, “Movimientos étnicos y multiculturalismo en el Ecuador: Pueblos indígenas, afrodescendientes y montubios”. 『人文研究』(神奈川大学) No. 176, 2012, 33-57, 査読無.

⑥出岡直也「参加型予算(ブラジル、ポルト・アレグレ市) —大規模政治体における民衆集会的政治の可能性—」篠原一編『討議デモクラシーの挑戦—ミニ・パブリックスが拓く新しい政治—』岩波書店、2012、147-194、査読有。

⑦狐崎知己「キューバ社会主義経済の移行問題」山岡加奈子編『岐路に立つキューバ』岩波書店、2012、141-173、査読有。

⑧Murakami, Yusuke, “Why Are There No Ethnic Movements in Peru?: A Comparative Study.” In Yusuke Murakami, et al., eds., *Enduring States: in the Face of Challenges*

from Within and Without. Kyoto: Kyoto University Press, 2011, 180-200, 査読有。

⑨Murakami, Yusuke, et al., "Introduction". In Yusuke Murakami, et al., eds., *Enduring States: in the Face of Challenges from Within and Without*. Kyoto: Kyoto University Press, 2011, 180-200, 査読有。

⑩Murakami, Yusuke, "Fuerza y límites del 'fujimorismo sin (Alberto) Fujumori'." En Carlos Meréndez ed., *Anti-candidatos: guía analítica para unas elecciones sin partidos*. Lima: Aerolíneas Editoriales S. A. C., 2011, 71-84, 査読有。

⑪村上勇介「断片化が続くペルー政治—2011年大統領・国会議員選挙の一分析—」『ラテンアメリカ時報』Vol. 54, No. 3, 2011, 33-37, 査読無。

⑫新木秀和「グローバリズムと反グローバリズム—市民運動の政治学」菊池努・畑恵子編『ラテンアメリカ・オセアニア』ミネルヴァ書房、2011、113-133、査読無。

⑬新木秀和「メスティサへと多文化主義のはざま—エクアドルにおける先住民の包摂と排除—」『人文学研究所報』（神奈川大学）Vol. 46, 2011, 53-66, 査読無。

⑭出岡直也「協同セルフヘルプ型（「クラブ財型」）集合行為におけるコミットメントと忠誠—ラテンアメリカの事例から—」『年報政治学』Vol. 62, No. 1, 2011, 133-166, 査読有。

⑮内田みどり「2010年ウルグアイ地方選挙」『和歌山大学教育学部紀要・人文科学篇』No. 61, 2011, 47-53, 査読無。

⑯浦部浩之「2009年ホンジュラス政変の衝撃と進まぬ米州関係の修復—大統領選挙監視団への参加も踏まえて—」『海外事情』Vol. 59, No. 5, 2011, 38-56, 査読無。

⑰遅野井茂雄「新興パワーとして台頭する中南米の開発課題と国際関係」『海外事情』Vol. 59, No. 5, 2011, 2-17, 査読無。

⑱遅野井茂雄「経済自由化と政治変化」西島章次・小池洋一編『現代ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2011、235-253、査読無。

⑲住田育則「軍政下ブラジルの記録映画に描かれたヴァルガスのカリスマ性」『紀要』（京都外国語大学京都ラテンアメリカ研究所）Vol. 11, 2011, 119-135, 査読有。

⑳高橋百合子「ラテンアメリカにおける福祉再編の新動向—条件付き現金給付」政策に焦点を当てて—」『レヴァイアサン』Vol. 49, 2011, 46-63, 査読有。

㉑坂口安紀「ベネズエラにおける地方分権化とチャベス政権下の制度変更」『ラテンアメリカ・レポート』Vol. 28, No. 2, 2011, 41-53, 査読有。

㉒山岡加奈子「全体主義体制としてキューバ

を論じるための研究ノート」『ラテンアメリカ・レポート』Vol. 28, No. 1, 2011, 58-69, 査読有。

㉓村上勇介「フジモリ後のペルーにおける軍人の政軍関係への認識—意識調査からの一考察—」『ラテンアメリカ研究年報』No. 30, 2010, 1-30, 査読有。

㉔新木秀和「エクアドル・アマゾン地域における石油開発と社会環境紛争」坂口安紀編『途上国石油産業の政治経済分析』岩波書店、2010、145-178、査読有。

㉕出岡直也「ブラジルとアルゼンチンにおける政党政治の変容と民主主義—州レベルの『伝統政治』という視角からの考察—」佐藤章編『新興民主主義国における政党の動態と変容』日本貿易振興会アジア経済研究所、2010、245-288 ページ。

㉖出岡直也「オルタナティブ通貨はどのような『社会運動』なのか」『法学研究』（慶應義塾大学）Vol. 83, No. 3, 2010, 131-165, 査読無。

㉗内田みどり「2期目に入ったウルグアイ左派政権—2009年大統領・国会選挙の経緯—」『ラテンアメリカ・レポート』Vol. 27, No. 1, 2010, 27-35, 査読有。

㉘浦部浩之「2009/10年チリ大統領・国会議員選挙—市民の政治離れと右派の勝利—」『ラテンアメリカ・レポート』Vol. 27, No. 1, 2010, 14-26, 査読有。

㉙遅野井茂雄「『ボリビア多民族国』への始動—新憲法下での選挙とモラレス政権の課題—」『ラテンアメリカ・レポート』Vol. 27 No. 1, 2010, 4-13, 査読有。

㉚住田育則「ブラジル 2010年大統領選挙の地域性と労働者党ルラ主義の展開」『紀要』（京都外国語大学京都ラテンアメリカ研究所）Vol. 10, 2010, 153-172, 査読有。

㉛坂口安紀「ベネズエラ 2010年国会議員選挙」『ラテンアメリカ・レポート』Vol. 27, No. 2, 2010, 11-23, 査読有。

㉜村上勇介「地域社会開発への住民参加—ペルーの事例から—」篠田武司・宇佐見耕一編『安心社会を創る—ラテン・アメリカ市民社会の挑戦に学ぶ—』新評論、2009、117-145、査読有。

㉝村上勇介「折り返し点を通過したペルーの第2期ガルシア政権」『ラテンアメリカ時報』Vol. 52, No. 2, 2009, 26-31, 査読無。

㉞新木秀和「エクアドルの言語政策と二言語教育の実践」畑恵子・山崎眞次編『ラテンアメリカ世界のことばと文化』成文堂、2009、183-194、査読無。

㉟出岡直也「ラテンアメリカ—二重の移行の国際政治学—」日本国際政治学会編『日本の国際政治学(3)—地域から見た国際政治』、有斐閣、2009、175-193。

㊱浦部浩之「チリにおけるフロンティアの拡

大と先住民一均質社会の形成と文化的多元性のはざままで」畑恵子・山崎眞次編『ラテンアメリカ世界のことばと文化』成文堂、2009、195-212、査読無。

⑦浦部浩之「日本の対ラテンアメリカ外交の歴史と現在—対米配慮と日系人配慮の外交から中長期ビジョンの構築へ」金沢工業大学国際学研究所編『日本外交と国際関係』内外出版、2009、127-154、査読無。

⑧狐崎知己「現代グアテマラにおける政治暴力の変容」『年報政治学』No. 2、2009、87-107、査読有。

⑨田中高「エルサルバドル 2009 年一試される左派政党の政権運営の力量—」『ラテンアメリカ・レポート』Vol. 26、No. 2、2009、15-23、査読有。

⑩山岡加奈子「ラウル新政権下のキューバ—発足から一年、変わるものと変わらないもの—」『ラテンアメリカ・レポート』Vol. 26、No. 1、2009、28-39、査読有。

〔学会発表〕(計 3 3 件)

①村上勇介(招待講演)「ペルーの動向—ウマラ政権の動向について—」国際開発センター『ODA 評価「ペルー国別評価」セミナー』2012. 3. 19、東京都立産業貿易センター浜松町館。

②Murakami, Yusuke, (招待講演) “Partidos políticos en el Perú: un análisis desde una perspectiva institucional”, Ministerio de Relaciones Exteriores del Perú, Conferencia “Sistema de partidos políticos en el Perú: desafíos y oportunidades”, 2012. 3. 8, Centro Cultural de la Pontificia Universidad Católica del Perú, Perú.

③Araki, Hidekazu, “Movimientos étnicos y multiculturalismo en el Ecuador: Pueblos indígenas, afrodescendientes y montubios”, Seminario Internacional “Estado, Ciudadanía y Movimientos Sociales en Tiempos de Globalización en las Américas”, 2011. 9. 6, Instituto de Estudios Peruanos, Perú.

④新木秀和「エクアドル—アマゾンの石油開発をめぐる社会的排除と地域住民の抵抗」日本ラテンアメリカ学会第 32 回定期大会、2011. 6. 4、上智大学。

⑤浦部浩之「ハイチ—災害への脆弱性—」ラテン・アメリカ政経学会第 48 回全国大会、2011. 11. 11、京都外国語大学。

⑥浦部浩之「2010 年ハイチ地震と混迷するハイチ政治—被災者支援事業モニタリング活動への参加をふまえて—」日本ラテンアメリカ学会第 32 回定期大会、2011. 6. 6、上智大学。

⑦Sumida, Ikunori, Celia Maria de Moraes Dias, Rogério Akiti Dezem, “Entre idas e

vindas: experiências de ensino da língua portuguesa no universo japonês”, III Simpósio Mundial de Estudos Língua Portuguesa, 2011. 8. 31, Universidade de Macau.

⑧住田育法「ブラジル労働者党政権の展開について—政党の動向と政治家のカリスマ性の考察—」、日本ラテンアメリカ学会第 32 回定期大会、2011. 6. 4、上智大学。

⑨Takahashi, Yuriko, (招待講演) “Rethinking Clientelism and Dominant Party Survival in Mexico”, LASAK (Latin American Studies Association of Korea) 2011 Winter International Conference: “Rethinking Socio-Economic Transformation in Latin America”, 2011. 12. 10, Incheon Memorial Hall, Korea University, Korea.

⑩Takahashi, Yuriko, (招待講演) “Clientelismo y la supervivencia del partido dominante en México”, Seminario de la ciencia política, 2011. 11. 21, Universidad de Granada, España.

①高橋百合子「メキシコにおける一党支配体制の生存戦略とクライアンテリズムの再検討」2011 年度日本政治学会研究大会、2011. 10. 9、岡山大学。

②村上勇介「ペルーの政軍関係に関する一考察」日本ラテンアメリカ学会西日本研究会、2010. 4. 10、京都大学。

③新木秀和(招聘講演)「コリア政権誕生にいたるプロセスから現在まで」シンポジウム「Viva Yasuni! 石油依存社会に対するアマゾンからの挑戦 日本は今、エクアドルから何を学べるのか?」、2010. 9. 6、上智大学グローバル・コンサーン研究所。

④浦部浩之「米州における地域安全保障構造の変化—新しい安全保障課題とラテンアメリカ諸国による対米自立の模索—」日本国際政治学会 2010 年度研究大会、2010. 10. 29、札幌コンベンションセンター。

⑤遅野井茂雄「ポスト新自由主義における左派アジェンダの分岐」日本ラテンアメリカ学会第 31 回定期大会、2010. 6. 6、京大会館。

⑥狐崎知己「二つのトリレンマ」日本ラテンアメリカ学会第 31 回定期大会、2010. 6. 6、京大会館。

⑦住田育法「ブラジル総選挙の地域主義と労働者党ルラ主義の展開」ラテン・アメリカ政経学会 2010 年度第 47 回大会、2010. 11. 13、慶応義塾大学。

⑧住田育法「ブラジルにおける労働者党の歴史とルラ政権誕生の経緯」日本ラテンアメリカ学会第 31 回定期大会、2010. 6. 5、京大会館。

⑨Takahashi, Yuriko, “Democracy, Accountability, and Poverty Alleviation in Mexico: Self-Restraining Reform and the

Depoliticization of Social Spending”, The Midwest Political Science Association, 2010. 4. 23, Palmer House Hilton, Chicago, IL, United States.

⑳田中高「キューバとラテンアメリカ社会主義政権との関係」日本ラテンアメリカ学会第31回定期大会、2010. 6. 6、京大会館。

㉑新木秀和「先住民運動と民主主義—エクアドルの事例を中心に—」日本ラテンアメリカ学会第30回定期大会、2009. 6. 7、東京外国語大学。

㉒出岡直也「ブラジルとアルゼンチンにおける政党政治—『伝統政治』と民主主義の質をめぐって—」日本比較政治学会2009年度研究大会、2009. 6. 27、京都大学。

㉓高橋百合子「民主化過程における制度改革に関する一考察—メキシコのアカウンタビリティ制度改革の実証分析—」日本政治学会2009年度研究大会、2009. 10. 11、日本大学。

㉔ Takahashi, Yuriko “The Politics of Social Spending and Self-Restraining Reform in Mexico”. The 2009 Annual Meeting of the Latin American Studies Association, 2009. 6. 12, Rio de Janeiro, Brazil.

㉕高橋百合子「新興民主主義諸国における政党間競争と分配政治—メキシコの事例分析—」日本選挙学会2009年度研究大会、2009. 5. 17、同志社大学。

㉖ Takahashi, Yuriko, “Does Democracy Dampen Clientelism? The Politics of Social Spending and Oversight in Mexico”. The 2009 Annual Meeting of the Midwest Political Science Association, 2009. 4. 16, Chicago, IL, United States.

㉗田中高「ホンジュラス大統領選挙—選挙監視員現地報告—」日本ラテンアメリカ学会中部日本部会研究会、2009. 12. 12、中部大学。

〔図書〕(計11件)

①Murakami, Yusuke, *Perú en la era del Chino: la política no institucionalizada y el pueblo en busca de su salvador*. 2ª. Edición, Lima: IEP, 2012, 698, 査読有。

②Murakami, Yusuke, ed., *Dinámica política-económica de los países andinos*. Lima: Instituto de Estudios Peruanos, 2012, 387, 査読有。

③山岡加奈子編『岐路に立つキューバ』岩波書店、2012、288、査読有。

④Murakami, Yusuke, et al., eds., *Enduring States: in the Face of Challenges from Within and Without*. Kyoto: Kyoto University Press, 2011, 312, 査読有。

⑤二村久則編『コロンビアを知るための60章』明石書店、2011、400。

⑥細野昭雄・田中高編『エルサルバドルを知

るための55章』明石書店、2010、322。

⑦坂口安紀編『途上国石油産業の政治経済分析』岩波書店、2010、240、査読有。

⑧関雄二・狐崎知己・中村雄祐編『グアテマラ内戦後—人間の安全保障の挑戦—』明石書店、2009、278。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村上 勇介 (MURAKAMI YUSUKE)

京都大学・地域研究統合情報センター・准教授

研究者番号：70290921

(2) 研究分担者

新木 秀和 (ARAKI HIDEKAZU)

神奈川大学・外国語学部・准教授

研究者番号：80276039

内田 みどり (UCHIDA MIDORI)

和歌山大学・教育学部・准教授

研究者番号：10304172

出岡 直也 (IZUOKA NAOYA)

慶應義塾大学・法学部・教授

研究者番号：50151486

浦部 浩之 (URABE HIROYUKI)

獨協大学・国際言語文化学部・教授

研究者番号：30306477

遅野井 茂雄 (OSONOI SHIGEO)

筑波大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：60257441

狐崎 知己 (KOZAKI TOMOMI)

専修大学・経済学部・教授

研究者番号：70234747

住田 育法 (SUMIDA IKUNORI)

京都外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号：40360242

高橋 百合子 (TAKAHASHI YURIKO)

神戸大学・国際協力研究科・准教授

研究者番号：30432553

田中 高 (TANAKA TAKASHI)

中部大学・国際関係学部・教授

研究者番号：10217044

二村 久則 (FUTAMURA HISANORI)

名古屋大学・国際開発研究科・名誉教授

研究者番号：30156939

(3) 連携研究者

坂口 安紀 (SAKAGUCHI AKI)

日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター・研究員

研究者番号：80450477

山岡 加奈子 (YAMAOKA KANAKO)

日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター・研究員

研究者番号：90466061